

1. 第 2 学年「かけざん」

2. 本授業の概要

本授業では、「同じ大きさの集まり」に着目させて、それが「いくつ分」あるのかをはっきりと意識付けながら、「○このいくつ分」とかけ算の意味をとらえ、式化していくことをねらった。

その際、絵の中からかけ算になる事例を見つけ出し、数図ブロックを並べながら考えを整理して、説明できるようにしようと考えた。

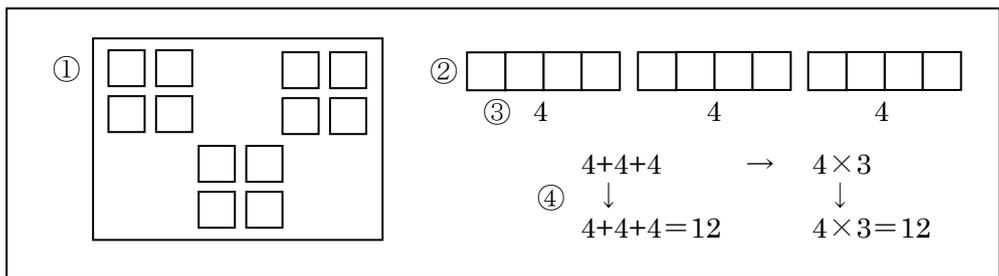


3. 実践の振り返り

(1) 数図ブロックの活用について

乗り物に乗っている人の数を数図ブロックに置き換えて並べ、「○このいくつ分」というように表現させ、かけ算の式にするようにした。

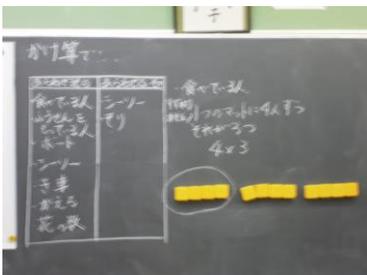
「①図の上に直接ブロック置く。(手持ちのブロックを置けるくらいの図が必要である。) → ②ブロックを並べる。 → ③数値化する。 → ④式化する(かけ算、たし算)」<図 1>というように、特に低学年の場合は段階的に抽象化していくことが望ましいとの意見があった。



次時において児童と一緒に試みたところ、児童の説明も整理され、聞いている仲間も受け取りやすかったようだ。図から式まで飛躍せずに段階的な抽象化が大切であると感じた。

(2) 授業展開について

本時は、「かけ算で表せない」ものを動かすことでまとまりとなり、「かけ算で表せる」ようにすることをねらっていた。しかしながら、まだうまく説明ができない児童の姿が多かったことから、「○このいくつ分」を自分で説明できることに修正することとした。表すことができない理由を明確にしておくとの後の学習につながった。



4. 指導講評 講師：小島 宏 先生

- ・ ノートのまとめ方に関して、低学年段階においては、ある程度型を決めて取り組むことも必要である。
- ・ かけ算は、たし算を便利にしたものであるということを明確に伝える必要がある。
- ・ 「…だから、○×△で表せる」という表現において、…にあたる部分をブロックで表すことが重要である。

